

IIAS NEWS LETTER

1997年6月発行

国際高等研究所

編集・発行／国際高等研究所

〒619-02 京都府相楽郡木津町木津川台9-3

TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005

<http://www.iias.or.jp/>

目次

◎1997年度事業計画

- [1] 新しく取り組む重点課題
- [2] 自主研究事業
- [3] 共同研究
- [4] 受託研究
- [5] 特別研究「沼記念プロジェクト」

◎研究所企画委員の改選

◎研究所関係者の内外受賞情報

◎財団関係者の異動

◎掲示板

今後の予定／IIAS Reports最新刊

1997年度事業計画

1997年3月10日に開催された理事会・評議員会において、本研究所が関西文化学術研究都市の中核施設としての役割を果たすために、高等研の創設理念を尊重しつつ、学際性・開放性を持った研究機能の発揮、先進性・創造性を備えた基礎研究、柔軟性・流動性を備えた研究事業の展開、産学協同の推進、の四つの基本構想の具現化を目指すことを確認した。そのために、以下のような新しく取り組む重点課題が了承され、4月以降、積極的に課題の取り組みを進めている。

[1] 新しく取り組む重点課題

(1) 特別研究員の採用

若手研究者の育成を図るために、日本学術振興会の特別研究員制度に準じた研究奨励金支給制度を設けた。採用期間は2カ年間、特別研究員として研究を進めると共に、高等研の研究プロジェクトへの参加と、その研究成果の継承・発展を図ることを狙いとしている。

1997年度には2名の採用を予定しており、4月から京都大学大学院法学研究科博士後期課程の上野達弘氏を採用。高等研での指導教授は、北川善太郎副所長。研究テーマは新しく始まる準備研究の「21世紀の法モデル」。

また、6月から大阪大学大学院理学研究科博士後期課程の三石祥子氏を採用。高等研での指導教授は、中村桂子学

術参与・特別委員（生命誌研究館副館長）。研究テーマは、新しく始まる準備研究の「20世紀の『生物研究』から21世紀の『生命研究』を考える」。

(2) 内外の卓越した研究者の招へい

1～2ヶ月間、内外の卓越した研究者を、招へい学者（IIASフェロー）として招へいし、研究交流を通じ研究所の活動を促進する。

新年度に入り、下記の研究者をIIASフェローとして招へいし、北村教授は、高等研内の宿舎に滞在されている。

○吉沢尚明・京都大学名誉教授（専門：幾何学・解析学）…4月15日～6月14日

○北村 甫・（財）東洋文庫理事長、東京外国語大学名誉教授（専門：言語学）…5月9日～7月8日

また、IIASフェロー公開講演会を下記のとおり開催する。

○第1回IIASフェロー公開講演会

日時：1997年6月7日（土）14：00～15：30

講師：吉沢尚明（よしざわ ひさあき）教授

講演テーマ：「シンメトリー—自然・芸術・科学における役割—」

○第2回IIASフェロー公開講演会

日時：1997年7月5日（土）14：00～15：30

講師：北村 甫（きたむら はじめ）教授

講演テーマ：「チベット語研究とフィールド言語学」

(3) 研究支援体制の強化

学術研究事務機構の充実・強化を図るために、学術研究行政の専門職員を研究所顧問として採用した。(別掲)

(4) 研究環境の整備

研究所の情報基盤を整備活用して、高度情報化への取り組みを推進する。特に、刊行物のデータベース化等、電子情報システムの整備を進める。

(5) 公的資金の受け入れ及び民間寄付金、並びに賛助会員のお願い

研究助成機関などに働きかけるとともに、企業等の協力を得て、賛助会員の募集に取り組み、研究資金の安定確保に努める。特に、賛助会員については、これまで景気の低迷や阪神淡路の大震災等で見合わせていたが、募集活動を開始する。

(6) 準備研究制度の実施

新しく提案された研究課題が、高等研の研究課題になり得るか否かの検討、課題研究に採択された場合に円滑に実施できるよう、約1年間、準備研究を行う。

○新年度から実施される準備研究は以下の通り。

- ①「20世紀の『生物研究』から21世紀の『生命研究』を考える」
主宰者：中村桂子（生命誌研究館副館長）
- ②「21世紀の法モデル」
主宰者：北川善太郎（高等研副所長）
- ③「科学の文化的基底」
主宰者：伊東俊太郎（麗澤大学比較文明研究センター所長）
- ④「環境と食糧生産の調和に関する研究
—人類生存の視野から」
主宰者：渡部忠世（京都大学名誉教授）
- ⑤「生命と論理のインターフェイス」
主宰者：長岡洋介（関西大学工学部教授）
- ⑥「予測の数学」
主宰者：四方義啓（名古屋大学大学院多元数理科学研究科教授）

[2] 自主研究事業

本年度自主研究事業は以下の内容で研究を推進する。

(1) 「人類の自己家畜化現象と現代文明」(1996年度より継続研究)

座長：尾本恵市（国際日本文化研究センター教授）

人類進化の説明に使われる概念「自己家畜化現象」—人類が自らつくる文化的環境によって自然淘汰から大幅に解放され、身体的にも独特の進化をとげたこと—を視点として、現代文明下での人類に課せられた課題を多分野の研究

者が参加して探求する。

○研究は、主として研究会を中心に展開する。

(2) 「生命体の多様性」(1996年度より継続研究)

座長：岩槻邦男（立教大学教授）

伝統的な分類系統学と最新の分子生物学の手法を駆使して得られた知見を基に、生物の多様性の実体とその存在意義の解明に迫る。

○研究は、主として研究会を中心に展開するが、適宜外部から講師を招き、拡大研究集会に発展させる。

(3) 「安全科学」(1993年度より継続研究)

座長：村上陽一郎（国際基督教大学教授）

昨年度は、以下のサブグループの個別研究の他に、安全学概念の構築を検討した。本年度は、引き続きサブグループで具体的な課題を追求するとともに、全体を総括する安全学に関して、最終的な結論を導くことを目標に研究を進める。

①「生命・医療」主査：村上陽一郎

テーマ「医療における安全の追求はどこまで可能か」

○主としてインタビュー方式で展開

②「都市問題」主査：岩崎 敬・東京大学先端科学技術研究センター客員研究員

テーマ「知恵化時代の持続的な都市の姿」

○研究会方式とインタビュー方式の併用

③「国際政治」主査：薬師寺泰蔵・慶応義塾大学教授
テーマ「安全保障と地球環境問題の安全科学的定立」

○固定メンバーによる研究会を中心に展開

各研究会の進捗状況など、インターネット上でメンバーの意見交換を行うバーチャル会議方式を引き続き採用する。

(4) 「複雑系の秩序と構造」(1994年度より継続研究)

座長：長谷川晃（大阪大学教授）

本年度世話人代表：吉田善章（東京大学助教授）

今まで、生命科学・物理学・数学・経済学等の専門分野の異なる国内の若手研究者を中心にワークショップ（会期1週間を2回）を実施してきたが、本年度は「災害の科学」を研究テーマとして、①粉体流の統計物理を方法論とした地震、崩壊、渋滞等の現象へのアプローチ、②反応拡散系に関する数理を方法論とした生態系、疫学、種の絶滅等に関するアプローチを試みる。

○国際ワークショップ（7月22日から8月5日）を開催し、研究成果の取りまとめを行う。

○ワークショップ期間中に、大学生を対象にした公開講演会（7月26日、27日）を予定している。

(5) 「情報論的転回」(1995年度より継続)

座長：吉田民人（中央大学教授）

昨年度までの「科学論」中心の視点から、今年度は「存在論」中心の視点に転換し、研究テーマを「『情報負荷』概念と存在論の情報論的転回」とし、新たに研究メンバーの再編成を行い研究を推進する。

○研究集会を中心に開催し、最終成果の取りまとめを行う。

(6) 「比較幸福学」(1994年より継続研究)

座長：中川久定(京都大学名誉教授)

昨年度に引き続き、研究テーマ「現代社会における幸福の概念—日本社会とフランス社会との比較」のもとで、日仏両社会における様々な職業および年齢の男女から聞き取り調査(インタビュー方式)を実施し、幸福の概念の分析・比較と、研究成果の取りまとめを行う。

○研究会は、外部講師の招へい、聞き取り調査を主に行う。

○フランスでの聞き取り調査を実施する。

(7) 「社会情報学」(1995年度より継続研究)

座長：吉田民人(中央大学教授)

研究テーマを「プログラム科学としての社会情報学」とし、これまでの研究で明らかになった「社会科学における最初のプログラム科学」という社会情報学の性格規定をめぐって、科学としての社会科学が依拠すべき社会現象の「秩序原理」に関し、法学、経済学、経営学、社会学、社会心理学、文化人類学、科学哲学などの多分野にわたる学際的な検討を行う。

○研究会を活発に開催し、年度末には成果の取りまとめを行う。

(8) 「わざ学」(1995年度より継続研究)

座長：山口 修(大阪大学教授)

昨年度に引き続き「わざ」の理論的研究を進め、研究テーマを「『わざ』と身体」とし、より具体的に「わざ」のあり方と結びつけながら展開する。

○研究会とあわせて公開イベントや「わざ」の現場見学も組み込む。

(9) 「言語の脳科学」(1997年度より新規研究)

座長：乾 敏郎(京都大学教授)

言語心理学、神経心理学、発達心理学、認知科学などの研究を背景に言語処理の脳内メカニズムに関するモデルを構築することを目的に、①概念形成と命題過程、②文法獲得と利用過程、③意味理解の過程の三つのテーマについて研究する。

○研究会を中心に推進し、11月頃には外国からの研究者を招へいた研究集会を開催する。研究成果の報告集を出版する。

[3] 共同研究

京都大学数理解析研究所との共同研究を、「財団法人国際高等研究所と京都大学数理解析研究所との共同研究事業に関する協定書」に基づき、ワークショップの開催を主として実施する。

[4] 受託研究

昨年度の研究成果を踏まえ、引き続き宇宙開発事業団より「JEMの人文社会的利用法に係わる調査研究」に関する受託研究を行う予定。

注) JEM:宇宙ステーション取り付け型日本実験モジュール(軌道上研究所)

[5] 特別研究「沼記念プロジェクト」

故・沼正作京都大学医学部教授の研究業績を讀えた特別研究として、(株)島津製作所から研究資金並びに研究施設の提供と支援を受けた冠研究である。1992年10月より開始、今年9月末で終了する。年度内に研究成果に基づく記念行事の実施を予定している。

専任の若手研究員3名、研究補助員3名の研究体制を組み、生物の個体発生、器官の分化、生体の恒常性維持や学習、記憶などの高次神経活動の機構を分子レベルで明らかにすることを旨とする。

研究所企画委員の改選

任期満了に伴う改選により、本年4月1日より2カ年間、下記の先生方に企画委員をお願いした。

(再任委員)

安藤 由典	東京情報大学経営情報学部教授(音楽学)
乾 敏郎	京都大学文学部教授(心理学)
四方 義啓	名古屋大学大学院教授(応用数学)
長岡 洋介	関西大学工学部教授(基礎物理学)
(新任委員)	
沢田 敏男	国際高等研究所所長(農業土木)
井口 洋夫	国際高等研究所副所長(物理化学)
北川善太郎	国際高等研究所副所長(民法)
松原 謙一	国際高等研究所副所長(分子生物学)
岩槻 邦男	立教大学理学部教授(植物分類学)
大野 豊	京都大学名誉教授(情報工学)
岡田 益吉	筑波大学名誉教授(発生生物学)
中川 博次	立命館大学理工学部教授(水域環境工学)
中根 千枝	日本学士院会員・東京大学名誉教授(社会人類学)
野家 啓一	東北大学文学部教授(哲学)
三輪 哲二	京都大学数理解析研究所教授(数理解析学)
渡部 忠世	京都大学名誉教授(農学・作物学)

研究所関係者の内外受賞情報

(1) 北川善太郎副所長のサイボルト賞受賞

1980年から1985年の間、ドイツ学術団体(Deutsche Forschungs Gemeinschaft[DFG])の総裁であったオイゲン・サイボルト教授夫妻が寄贈された基金をもとに、1996年にサイボルト賞が設けられ、2年毎に日独両国の学術交流・相互理解の改善につとめた日独研究者に授与されることになっている。

本年3月25日、第1回目の受賞式がドイツのバードゴータスベルグにある学術センター・ホールにおいて、ドイツ学術団体総裁ワルター・フリーワルト教授からブッフム大学ブルーノ・レヴィン名誉教授とともに、北川善太郎副所長にサイボルト賞が授与された。

(2) 松原謙一副所長の紫綬褒章受章

学術研究や発明に関する顕著な業績に対して授与される紫綬褒章が、永年に亘る分子生物学の分野で顕著な業績をあげられた松原謙一副所長に与えられた。

財団関係者の異動

(1) 熊坂誠常務理事の退任

1987年6月から永きに亘り、松下電器産業(株)より出向していただいた熊坂誠氏が、停年退職により退任された。設立後の募金活動、施設建設から今日に至るまでのご尽力に対し感謝致します。

(2) 新井輝隆研究所顧問の就任

1997年4月1日から、岡山大学前事務局長の新井輝隆氏が、研究所顧問(常勤)として就任された。

掲 示 板

◎今後の予定 (会場は原則として高等研)

月 日	プロジェクト名	オーガナイザー
6月4日(水)	「20世紀の『生物研究』から21世紀の『生命研究』を考える」(アイジビリティスデー)	中村桂子 (特別委員/生命誌研究館副館長)
6月7日(土)	「比較幸福学」研究会	中川久定 (特別委員/京都大学名誉教授)
6月7日(土)	第1回IIASフェロー公開講演会 「シンメトリー自然・芸術・科学における役割」	吉沢尚明 (IIASフェロー/高等研顧問)
6月14日(土)	「安全科学」(国際政治班)研究会	薬師寺泰蔵 (特別委員/慶應義塾大学法学部教授)
6月21日(土)	「生命体の多様性」研究会	岩槻邦男 (企画委員/立教大学理学部教授)
6月27日(金) ~28日(土)	「科学の文化的基底」研究会 (アイジビリティスデー)	伊東俊太郎 (特別委員/麗澤大学比較文明研究センター所長)
6月27日(金) ~28日(土)	「環境と食糧生産の調和に関する研究」 (アイジビリティスデー)	渡部忠世 (企画委員/京都大学名誉教授)
6月28日(土)	「比較幸福学」研究会	中川久定 (特別委員/京都大学名誉教授)
7月5日(土)	第2回IIASフェロー公開講演会 「チベット語研究とフィールド言語学」	北村 甫 (IIASフェロー/(財)東洋文庫理事長)
7月11日(金)	「人類の自己家畜化現象と現代文明」研究会	尾本恵市 (特別委員/国際日本文化研究センター教授)
7月22日(火) ~8月5日(火)	「複雑系の秩序と構造」国際ワークショップ	長谷川晃 (特別委員/大阪大学工学部教授)
7月26日(土) ~27日(日)	「複雑系の秩序と構造」公開シンポジウム	長谷川晃 (特別委員/大阪大学工学部教授)

◎IIAS Reports最新刊

No.	タイトル	プロジェクト名	著者・代表者
1997-001	Infinite Analysis - Integrable Systems and Representation Theory	数理科学「無限系の解析」	三輪哲二
1997-002	Infinite Analysis - Mathematical Fluid Mechanics and Applications	数理科学「無限系の解析」	岡本 久
1997-003	Infinite Analysis - 無限可積分系 - 過去・現在・未来	数理科学「無限系の解析」	三輪哲二
1997-004	Concept Formation, Thinking and Their Development	理論生命科学「脳と心」	伊藤正男